特 251
507

64

日本精神

の由來及び特質

神道護國聯盟叢書

第八輯

始

特251
507

日本精神の由來及び特質

神道護國聯盟

昭和九年十一月十五日
帝國圖書館

神道護國聯盟規約拔萃

第一條　本聯盟ハ神道教派、神道關係團體及ビ其ノ他ノ同志者ヲ以テ結成ス

第二條　本聯盟ハ神道護國聯盟ト稱ス

第三條　本聯盟ハ事務所ヲ東京市神田區和泉町一番地ニ置ク

第四條　本聯盟ハ現下ノ非常時局ニ對應スル布教宣傳ヲ行フヲ以テ目的トス

第五條　本聯盟ハ前條ノ目的ヲ達成センガ爲メ參考資料トシテ順次宣傳用小冊子ヲ刊行ス

第十六條　本聯盟ハ成立ノ日ヨリ滿貳箇年ヲ以テ壹期トシ其ノ繼續解散ハ理事會ノ決議ニ依ル

昭和八年三月十九日

日本精神の由來及び特質

文學博士　高木武

一、緒論

今日我が國は、對外的には國際關係が非常に面倒になつて危機を孕んで居り、又對內的には色々な方面に行詰りが出來まして、色々不祥な事件が起り、殊に思想方面に於て非常にやかましくなつて居りまして、國體意識、國民意識といふやうなものを確定することが非常に面倒になつて居ります。隨つて「日本精神」といふことが頻りに論議せられ、又强調せられるやうになつて來て居ります事は、洵に國家の爲めに結構な事と考へます。

併し「日本精神」と申します言葉の内容は、雜誌や其の他のものによく出ますけれども、必ずしも人によつて一樣ではないやうでありまして、區々になつて居ることも尠くないやうに考へます。私は茲にお話申上げる順序と致しまして、「日本精神」といふものはどんなものであらうかといふやうな概念を申上げまして、それによつて色々な方面から見ました所を申上げたいと考へます。

「日本精神」と申しますのは、文字通り日本の國家興隆發達の原動力となつて居る、日本民族に特有なる精神と考へます。つまり日本の國家及び國民を特定付けて居る我が民族性で、古くは大和魂と申して居りましたが、大體に於ての概念は同じ事と考へます。これは見方によりまして色々説明が出來ることゝ考へますが、私は成るべく主要な事に就きまして、極く大雜把ながら一通り輪廓的に申上げて見たいと思ひます。

我々人間の生命は古から人生五十と云はれて居ります。五十年では餘り呆氣ないですけれども、平均年齡は五十以内のやうであります。併し今日五十位では、人生を終つたものと見る氣分にはどうしてもなれませぬ。七十八十になつても活動して居る方が澤山あります。併し一般から見て申しますと七十八十は長壽の方で、百歳の壽を保つといふことは稀れであります。且つ無限の過去から無限の未來に向つて流れて參る所の時間の長いことから考へますと、人間の一生は洵に儚いものでありまして、電光石火とか、陽炎の如しとかいふ比喩の通りであります。

併しながら私共の生命は假令五十年七十年で死にましても、血統によりまして子孫に傳へることが出來、又我々は血統によりまして親から生命を承けて居ります。それで何百年或は何千年の古から我々の生命は承繼いだものであり、又これを何百年或は何千年の後までも傳へて行くことが出來るものでありますから、私共は短く限られた個人的生命卽ち五十年か七十年かの壽命の外に、長く祖先から子孫を通じて繼續されます血族的の生命を有つて居る譯であります。

民族と申しますものは、過去、現在、未來を通じて連續して居る所の、血族的の生命を綜合したものであります。これが血族を同じうして居るばかりでなく、同じやうな氣候、風土、境遇の下に統一致します所から、其の精神組織に同じやうな特色と、或る固定した性情を帶びて來るものであります。普通これを民族性と稱して居ります。民族は原始時代は別と致しまして、少し開明の域に進みますと、一定の土地に定着して住むことになり、さうして公共的に社會生活を營みまして、獨立の權力によつて支配せられ、所謂國家といふものを組織するのでありますが、かうして國家を組織して生活する民族が國民であることは申すまでもありませぬ。隨つて一つの國家の中には、必ずしも一つの民族だけとは限らず、二種若くは數種の民族を含んで居ることもありますが、其の國の發達の過程を見まするとと、或る一種の民族が中樞となつて、其の國家を組織し、國家の興隆發展を促して居るのが普通であります。

我が國に於きましては、古來大和民族が中樞となつて國家發展の全權を握りまして、蝦夷であるとかいふやうな異つた種族を征服し、又漢民族や朝鮮民族が渡來して歸化した者も尠くなかつたに拘らず、悉くそれを同化致して居ります。又近代になりまして我が國の國運が急に發展して、臺灣、樺太、朝鮮などを我が領土に收めましてから、支那民族とか、馬來民族、オロッコ民族、朝鮮民族など、多數の民族を我が國民の中に包容致しまして、今では是等の民族を次第に誘掖同化しつゝある譯でありますが、併し大和民族は、依然として我が國民の代表者となつて行くことは申すまでもありませぬ。それで國家組織の要素と致しましては、中樞民族が其の代表となることは勿論であります。

其の國を代表する民族の生活がやがて其の國民の生活となり、茲に民族性といふものが轉じて國民性となる譯であります。かうして國民の間には他の國民と混同すべからざる國民的の性格を構成するものでありますから、我々は容易に日本人とか、

支那人とか、或は英吉利人、佛蘭西人、獨逸人、伊太利人などいふ、國民的性格の型を立てることが出來ます。隨つて是等の國民の性格、又其の活動狀態を見ますと、直ぐに其の國民的特性の型を識別することが出來るのであります。

さうして此の國民性は國民の生命でありまして、其の消長は國家の盛衰興亡に關するものであります。若し一國民が優秀なる國民精神を持つて居つてそれを働かしたならば、其の國家の興隆發展は期して待つべきものがあると思ひます。又若し其の反對に國民性の特長を銷磨して、極めて弱い又劣つたものと做しましたならば、其の國家は次第に衰弱して非常な悲境に陷るか、さうでなければ滅亡する外ないであらうと考へます。我々が日本國家及び國民の興隆發展と安全幸福とを期するに就きましては、我が國民に特有なる日本精神の由來や特質を明かにして、其の機能と威力とを發揚することが、今日の時勢に於て最も緊要な事であらうと考へます。

世界萬國に冠絶して居りまする金甌無缺の我が國體が成立つに就きましては、色

色事情がありますけれども、其の最も根本的なるものは國民精神、即ち「日本精神」であらうと考へます。國體は國家の性格の表現せられたものでありまして、國家の性格はそれに定著する國民精神の露れでありますからして、國體の差異は國民精神の差異に基づいて現れるものと考へます。今我が國體の根柢となつて居りまする最も主要顯著なる國民的特色と申しますと、私は第一に統一性、永遠性といふものを擧げなければならぬと考へます。

二、統一性

統一性と申しますのは、中心的に物事を總合統一する精神であります。今宇宙の狀況を觀察致しますのに、太陽を中心として幾多の惑星や衞星が運行して居る、さうして宇宙其の物の組織は中心的に出來て居るやうであります。それが宇宙其の物即ち大自然の最も自然な行道ではないかと考へます。人類の生活に於て中心的の

現象が現れますのは、私は最も自然な行道であらうと考へます。さうして我が國民には、さういふ中心的な統一性が特に著しく現れて居るやうに考へます。

我が國に於ては家長といふものを中心として、家族といふものがあり、又大きく觀ますと、皇室といふものを中心と致しまして、全國の家といふものが認められて來て、そこに綜合的の家族制度を形造つて國家を組織して居ります。さうして我が國の家庭は、家長を中心として組織的經濟的に統一せられて居るだけでなく、純眞な力强い敬と愛とによつて組織されて居る所の、極めて美しく、樂しく、さうして淨い、又溫い團體であります。さうして我々人生に取つて、家庭は洵に樂しい、又安全な、又幸福なものであります。是等の家といふものが集つて村とか町とかを形造つて居り、又村や町には大抵氏神といふものがあります。この鎭守の社を中心として、多少の例外はありますが、氏子といふ團體が大抵形造られて居ります。隨つて我が國に於ては家を愛する心、又鄕土を愛する心、又國を愛する心といふもの

が、それ〴〵家、鄕土、又國を中心としてそこに綜合的に統一され、信仰的に結束されて、そこに愛家心、愛鄕心、愛國心といふものが力强く現れて居ります。又一家の內に於きましては家長といふものを尊重し、又鄕黨に於きましては其の地の長老を尊重し、又國家に於きましては皇室を尊崇する所の念慮が非常に厚く、さうして一つの家、又一つの鄕黨、又一つの國を背景と致しまして、生活し活動するにもそこに整然たる統一があり、又節度がありまして、殆ど一糸紊れず、調和團結が行はれて居るのが我國の特色であります。そこで此の統一性といふものが永遠性と關係があります事は後で申上げますが、この統一性から樣々の文化現象が現れて居ると思ふのであります。

それを此に二、三の例を擧げて見ますと、例へば櫻花といふものが我が國の國華になつて居ります。何故に我が國民が國華として櫻花を愛護致しますか、一つの花として觀るならば、櫻花より奇麗な花が澤山あります。菊でも、牡丹でも、或は海

棠でも、花一つ千切って觀ましたならば、櫻より或は綺麗であるかも知れませぬ。併しながらさういふものを措いて愛護し、花と申しますと櫻花を意味することになる、牡丹見とか、菊見とか、菖蒲見などにも人が出る、或る程度までは騷ぎますけれども、櫻花を見る時のやうに熱狂して、國民が擧つて殆ど家を空にして愛翫するといふやうなことは、殆ど他に例が無いのであります。

何故に櫻花が我が國民の心をそれ程までに引付けるかと申しますと、櫻花のあの非常に上品で、さうしてスッキリした美しい花の趣を愛するといふことは申すまでもありませぬが、併しながら櫻花の眞の價値は、花一つ、又一枝折つて床の間へ活けた丈けでは現れない、必ず木の儘自然に叢り咲いて居る所の、綜合的に一種の美觀を發揮して居る、それを觀なければ櫻花の眞の特性が分らない、美觀が分らないのであります。さうして櫻は咲く時も同時に咲き散る時も同時に散ります。我が國が總て家を中心とし、鄕黨を中心とし、國家を中心として、そこに集團的に一糸

紊れず整うて居るといふ所の、國民の統一性と共通する特性を有つて居ります。さうして木そのものを背景として、そこに大きな枝、小さな枝、それから花といふ工合に、チャンと順序立てゝ纏められてゐて、それ全體を綜合的に觀るといふことは、丁度我が國民が綜合的に小さくは家を成し、大きくは國家を成して居るのと一致して居ります。かやうに櫻の特性が最も強く發揮されるのは綜合的統一性に在るのでありまして、この點が我が國民の生活と前述の通り共通する所がある爲めに我が國民の心を強く引付けるのであらうと考へて居ります。

それから例へば室町時代に發達した文學的の一つの連歌でありますが、此の連歌と申しますものは、御存じの通り第一句と第二句、第三句と第四句といふやうに、一句づゝ隣合せて連鎖的に續けて參ります。後に第一句だけを獨立さして發句が發達しましたけれども、連歌の眞の姿は矢張り綜合的に統一して見なければ、一つ一つ離しては意味をなさず、又特質が現れないのであります。卽ちこれも一個人の立

場を捨てゝ、他と協調提携して、さうして其處に居る一團の人々の心が次第々々に次から次へと流動して行く、即ち個人的の社會といふものを超越し、小さな我といふものを殺して、大きな我といふものに綜合統一されるのであります。我々の家に於きましても、我々は無論個人としての或る程度までの自由があります。又人格も無論認められますけれども、家全體として見るときは、矢張り小我を超越して大我によつて統一され、一鄕としても、又國家としても、小我を超越して大我によつて皇室を中心として日本國民は統一される、それで我が國民に於ては國家本位であつて個人本位でない。さうしてそこに現れる人格は、小我の姿ではなく大我の姿で現れて來たと考へます。

三、永遠性

それから次に永遠性と申しますものは、統一性を縱に延ばしたものと見ることが

出來ると思ひます。隨つて統一性と根據を同じうするものであります。個人の血族的方面は祖先から子孫に無窮に繼續すべきものでありますから、それを綜合した國民の生命も永遠に繼續すべき筈のものであります。ところが世界に於ける實際の事實を見ますと、此の永遠性を文字通りに發揮して居る國民は殆どありませぬ。然るに我が國民には此の永遠性は非常に力强く現れて居ります。さうして其の機能を理想的に發揮して居ります。人間の社會關係に於て、親の子に對する恩愛と、子の親に對する敬愛ほど、純眞な、力强い、又熱烈なものはありませぬ。我々は親から生命を受け、又其の生命を子に傳へて死んで行くものであります。隨つて親子の間には敬と愛とによつて結ばれた美しい生命が本能的に結合して、さうして永遠の生命が段々祖先から子孫を通じて傳承繼續せられて參りますやうに、自然とそこに運命付けられて居ります。親から子に生命を傳へ、又親が子を愛するといふやうな働きは無論禽獸にもありますけれども、子が親に對して敬愛又は感謝の意を表する、

さうして親の恩誼に報ゆるといふやうな精神作用は禽獸には殆ど見られないのであります。禽獸でも烏に反哺の孝ありといふことがありますから、決して無いとは申されませぬけれども、大體に於て報本反始の心は人間の特性であります。親子の情愛は人類に共通の性情でありますけれども、我が國民に於ては親の子に對する恩愛、又子の親に對する報本反始の敬愛が特に著しく現れて居ります。これは統一性と永遠性が家を中心として、縱と横とに活動する所から來て居る現象と考へます。

それで親に對してばかりでなく、祖先に對しての尊崇、敬愛、思慕の念が強く起つて參ります。親に孝行をするといふやうなことも、單に自分の生みの親に對して行ふばかりでなく、遠い祖先にまで遡つて及ぶことになつて居るのが日本の特色であります。さうして我が國家は皇室を中心と致しまする綜合的の家族制度で組織され、恐れ多くも天皇陛下を族長と仰ぎ奉る全國民が大きな一家族のやうに綜合統一されて居りまして、然も其の血族的の生命が理想的に傳承繼續せられて居ります。

我が皇室が肇國以來、萬世一系の皇統を繼續されて今日に及び、更に永遠無窮に榮え給ふやうに運命付けられて居りますことは、古事記日本書紀等の神話によつて證明されて居りますやうに、我が國に於ては皇室の御祖先たる御祖の神伊弉諾尊伊弉冊尊が先づ國土を御生みになり、國民の祖先たる神々が國民生活に必要なる樣々の物資を御造りになりまして、尋いで天照大御神樣が皇孫瓊々杵尊を豐葦原の中津國へ御降しになりました際に、天壤無窮の神勅を下し給ひ、三種の神器を賜はつて居ります。かうして我が國は萬世一系の皇統を承け給ふ天皇陛下によつて、永遠無窮に統治せらるゝことが定まり、君臣の分が儼然として定められましたから、今日に至るまで君臣の大義は未だ曾て紊れたことなく、將來と雖も絶體に紊るべからざるものであることは申すまでもありませぬ。

隨つて皇室と國家とは全然一體でありまして、皇威の發揚といふことは國運の振

興を意味し、又國力を發展させることは、皇威を發揚する所以であります。君に忠を盡くし奉るのは國を愛するのと全く一致して居ります。皇室と臣民との關係は君臣の義に兼ぬるに父子の情を以て致しまして、君臣の間が極めて親善でありますからして、臣民が皇室に忠を盡くし奉るのは、子孫が自分の祖先の意志を承繼ぐのでありますから、卽ちそれが孝行となり、忠義と孝行が全く一致するのであります。さうして皇室は絕對の尊嚴なる地位に在らせられまして、皇位は亦神聖にして、我が國の主權の絕對的自立を具體化せられたものであらせられるのであります。そこで　天皇陛下は、恐れ多い事ながら天照大御神樣の御延長であらせられますから、これを現人神として尊崇し奉る譯で此に我が國民の一大信仰があるのであります。又三種の神器は皇位を繼承し給ふ所の具體的の表證として、是亦尊貴無比なるものでありますが、これは道德の象徵とも解釋されまして、國民指導の基本になつて居ります。皇室の絕對に尊嚴に在しますことは、其の一つの例としては苗字がお

ありなさらぬといふことが明に證して居ります。臣下は如何なる身分の高い御方でもそれ〴〵苗字を持つて居ります。又文武天皇の御卽位の宣命に「中今」といふ御言葉がありますが、これは現在を以て、過去から將來に亙る永遠の時の中間である、斯ういふ意味であります。卽ち永遠の觀念を現はし、天壤無窮の皇運を示して居る事と考へます。又天照大御神樣は、人格者として皇祖神の尊嚴なる地位に在しますことは申すまでもありませぬ。これを日の神と稱へ奉るのは、廣大無邊なる御德を太陽に擬へたものと考へます。其の御子孫が萬世一系の皇統を繼ぎ給ひ、さうして天津日繼を御承繼になりまして、永遠に我が國を統治遊ばされるのは、澤山の遊星を率ゐて永遠に運行する太陽系と、其の趣を同じうして居るものと見ることが出來ると考へます。さうして其の國家組織の根柢が、親子の情愛を基點として最も自然に發達したものでありますから、我が國家は世界に於て最も理想的な、完全無缺な存在であり、これが根柢となつて居りまする所の、我が國民精神の統一性、

永遠性といふものも、亦最も自然にして、さうして優秀善美なものであると云うて可からうと考へます。

斯ういふ譯でありますから、我々日本民族は、國家と我々、又皇室と我々、總てそれを一體とした關係に依りまして、其の國家意識といふものを象徴し、さうして小我といふものを國家的に發展せしむるのを本領として居る、其の小我を殺して、大我を國家的に統一してそれを實現するといふことが、我々國民の本分であらうと考へます。

ところが支那民族に於きましては、統一性とか永遠性といふものがありませぬから、家族制度はありましても、それが小我的にバラ〳〵になつて居る、卽ち支那民族に於ては、小我の集りで大我は現れて居りませぬ。それは卽ち其の家といふものを統一する所の、本當に力强い中心が無いからであります。支那でも家を單位として社會國家を組織して居ります。併しながら支那に於ける社會組織と、我が國に於

ける社會組織とは根本的に非常な違ひがあります。支那に於ける國家と申しますのは縱の統一が無論ありませぬ。又横の統一も我が國のやうな理想的なものでなく、單なる集合に過ぎないのであります。それで家と社會、又國家との間に屢〻衝突が起る、又さういふ場合に、支那民族は家の方に重きを措くといふ風になつて居ります。又禪讓放伐、易姓革命が屢〻行はれますから、隨つて國家といふものが永續致しませぬ。幾度となく變更して居ります。さうして支那では其の家族の意識と、忠君愛國といふ事と衝突致します。孝といふものは、我が國のやうな大きな孝ではありませぬけれども成立ちますが、忠君といふ事も愛國といふ事も成立ちませぬ。本當の忠君、本當の愛國は支那のやうな國家としては現れませぬ。況や忠と孝と一致するといふことは全く無いのであります。

西洋に於ては人民が主體となつて君主を立て、個人を本位として社會國家が組織され、個人の權利に重きを措いて居ります。隨つて忠君と愛國と衝突することが屢

屢あります。詰まり日本は國家といふものを本位として居りますが、支那は家を本位とし、西洋は個人を本位として居り、さうして國民精神が興つて居ります。

日本民族の統一性と永遠性とは固より本來自然と備はつたものでありまして、建國の事情や歴史の成跡によつて愈〻それを磨き上げ、さうして大成したものと思はれますが、我が國は亞細亞の東の端に位して居る島國でありまして、領土は餘り廣くなく、然も國民生活が其處に立派に統一されるといふ事情、それから又さういふ狹い處へ持つて來て四面海を環らして居りますところから、外國の侵略を受けることが非常に尠かつたのであります。尤も元寇の役などで侵略を受けたこともあります。又日露戰爭にはバルチック艦隊が參つて、大分危い目に遭つたこともありますけれども、直ぐ敵を破りまして、さうして我が本國には少しも侵略の迹を殘さないのであります。尤も壹岐對馬は少し荒されましたけれども、併しそれは一時の事で、決して取られたといふことはありませぬ。隨つて民族が血統を保つことが出來たのであります。さういふ事情などが色々綜合的に寄りましてからういふ金甌無缺な國體が成立し、さうしてそれに尋いで又かういふ永遠性とか統一性といふ、最も力强い、最も理想的な國民性が發達して來たものであると考へて居ります。

四、包容性

其の次には包容性とか同化性とかいふやうな事であります。此の包容性と同化性とは相關的のものでありまして、これも見樣によつては統一性が働いて居るものと考へられます。統一性の中に含めて見、又含めて說明しても說明せられるものと考へます。我が國民は外物を自由自在に包容して來るといふ技術に長じて居ります。それでありますから非常に開放的であつて、外來文化なども歴史の迹を顧みますと、何時もドン〳〵取込んで居ります。さうして時には長所だけでなく、短所までも取入れて摸倣することもありましたが、併しやがてそれを同化して自家藥籠中の物と

して、何時も自分の國民的性情を涵養陶冶する用に供して居ります。又文化建設の資料にも供して居ります。

仏教は元來超現實的、超國家的の思想でありますが、我が國民はそれを取入れまして、超國家的超現實的の性質では我が國情に合はない、又國民性情に合はないところから、それに合ふやうに現實的のものとし、又國家的のものとして同化して居ります。一面に於ては佛教を取入れました爲めに、悲觀厭世、或は現實を逃避するといふやうな弊害を醸して居ることも尠くありませぬが、併しながら又一面に於ては、國家を鎮護することに佛教を利用して居ります。さうして又一面に於ては慈悲忍辱といふ德性の涵養にも役立てゝ居ります。殊に禪宗などに於きましては安心立命をして、悟道卽ち悟を開くといふ方面の用に供して、武士道の發達などには特に役に立つて居る所があります。

それから儒教といふものが、仁義とか孝悌などといふやうな道德を說いて居りま

すが、我が國の道義を招來するのに其等を攝取して、さうして我が國民の德性を涵養する上に役立てゝ居ります。併しながら禪讓放伐、易姓革命の思想は我が國體と絕對に合ひませぬから、これを巧みに排除して、我が國の性分に合ふやうに、日本精神發展の用に供するやうに同化して居ります。

又明治維新に西洋の文物を盛んに輸入致しましたが、これも巧みに同化して、殊にこれは精神的方面よりも物質的方面が主になつて居ります。さうして我が國に於ける物質文化を今日までに造り上げて居ります。併し一面に於きましては、西洋の物質文化に眩惑して、無暗矢鱈にそれを取入れましたので、今日に於ては寧ろ其の中毒弊害が簇出して洵に憂ふべき現象が尠からず現れて居ります。

又他の二、三の例を申して見ますと、外國語を我が國になか〳〵取入れて居ります。朝鮮語、支那語は無論であります。それから南洋方面の言葉も入つて居ります。西洋語も入つて居ります。德川の末から明治へ掛けまして、外國語が盛んに入つて

居りますが、是等は今日に於ては餘程同化されまして、殆どそれが國語と區別ないものになつて居るものが澤山あります。

又音樂などにしても外國の音樂を取入れてそれを立派に同化して居ります。其の一つの例として三味線に就て申しますと、三味線は舊と埃及に起つたものであります。それから波斯に入つて、又支那に入り、支那から琉球に渡つて、江戸時代に我が日本に傳はつて來て居ります。ところが琉球から傳はりました三味線がまだ充分でありませんでしたので、我が國に入りましてからスッカリそれを入れ替へまして、殆ど日本的にそれを同化致し、彈き方から何から總て日本に同化されて、今日のやうな立派な樂器になつて居ります。

又我が國には外國から歸化した者も尠くありませぬ。日本書紀、新撰姓氏錄、續日本紀などに據りますと、秦人、漢人、朝鮮人などが澤山歸化して居ります。日本內地に於ては、熊襲とか、蝦夷などといふ異民族を多數包容して居ります。併し是

等はスッカリ同化されまして、今日に於ては殆ど其の差別が無い程になつて來て居ります。さうして歸化人の子孫の中にも、我が國家に功勞のあつた者が尠からず現れて居ります。例へば坂上田村麻呂は後漢の靈帝の子孫であります。又田道間守は新羅の王子の子孫であります。それから南朝の忠臣で有名な兒島高德は支那の王子の子孫であるといふやうな例でありまして、殆ど我々はそれを歸化人の子孫とは夢にも想はない程同化されて居ります。

又日本人は摸倣に長じて居ると稱せられますが、併しながらそれは決して單なる摸倣ではなくして、一種の換骨脫胎であります。又見やうによつては改良創造であります。例へば先刻申しました三味線の如きも、琉球から渡つた物とは全然面目を異にして居ります。況や埃及や波斯にあつた時分とは全く面目を一新して居ります。又西洋諸國が數百年掛つて築き上げた文化を、我が國民が僅か數十年で築き上げてしまつたものがあります。是等は洵に驚異的の事實でありまして、我が國民の同化

力の力強さを雄辯に物語つて居ると云つてよいと考へます。

五、純眞性

其の次は純眞性と申します。これは自然の儘有りの儘で少しも僞らず飾らない性質であります。我が國民の非常に潔白で罪の穢れを忌み嫌つたといふことは、古事記、日本書紀、祝詞などに幾多の例がありまして、皆さん御承知の通りであります。隨つて正直であります。又非常に廉恥を重んじ、仁義を重んじ、節操を尙んだことは申すまでもありませぬ。隨つて卑怯未練な事を卑しみ、又陰險を嫌ふ傾向があります。又名譽を尊重する念の強いのは、不純な事を嫌ふ性質の現れとも見られます。これが亦一方から申しますと、我が國民に武勇の氣象を涵養せしめて居ります。名譽を非常に尙ぶといふことが、一般國民の間に著しいのであります。殊に武士の間にそれが重んぜられ、武士道修養の德目となつて居ります。さうして此の名譽と

いふものは、個人の名譽と共に、家の名譽、主君の名譽、國家の名譽といふ事にまで推し及ぼして、それを汚さないやうな努力を拂つて居ります。

純眞といふ事は自然單純といふ事と一致して、我が國民の生活樣式は趣味や趣向などは割合に簡易で、隨つて淡白な傾向があります。住宅とか庭園とかの構造は概して申しますと開放的でありまして、又それが自然であり、餘り不自然な技巧を凝らさないのを歡ぶ風があります。又着物や食物にしても、支那や西洋の衣食に較べますと、淡白で單純であることは御存じの通りであります。さうして又贅澤とか豪奢といふやうなことは概して戒めて、質素儉約を重んずる性を大體に於て養つて來て居ります。

それから大自然といふものは極めて純眞であつて少しの虛僞を許しませぬ。有りの儘の姿を現はすものでありますが、我が國民はそれを非常に愛する傾向が强いのであります。人の名前や物の名前に自然物を採つたものが非常に多いことや、又着

物や住宅や器物などに、自然の景色とか、又自然の生物の姿を現はした物の多いことは御存じの通りであります。物語などにしても、例へば源氏物語を見ても殆ど自然の發露であります。又畫の方を見ましても、自然といふものを題材としたものが大部分を占めて居ります。殊に隨筆、詩や歌に著しくそれがあります。又それには必ず季節を入れることになつて居りまして、自然が背景の生命となつて居ります。其の他我が國民は直覺的でありまして、物事を視察するに直感を重んずる風があり、又感激的でありまして、功利打算の觀念の少いことなども、純眞性に根ざして居るものと云うてよいかと考へます。

斯ういふ性情は日本の風土が風光明媚で、川の水が非常に澄み切つて、到る處に湖水があり、池があり、淨らかな流れがあり、空氣も澄み切つて居つて、天候も概して朗かであり、國民の大部分は勞働生活をして自然に親しむことが多く、主に植物を食用に供して居ります。さういふ所から自然といふものとは切つても切れない

非常に深い關係があります。隨つてそれを熱愛し、國民性情がそれに同化されて、さうして純眞な自然性格が現れて來たのではないかと考へます。

六、快潤性

それから快潤性であります。快潤樂天的で物事に餘り屈托せず、アッサリして思切りがよくて、面白く樂しく其の日を過さうとする傾向が、日本民族の特性の一つと見られて居ります。それで概して日本國民は陽氣でありまして、物事を見る場合に、暗い方面よりも明るい方面を見ることが多いのであります。又災難などに遭ひましても泣言を餘り申しませぬ。諦めてしまう性質が著しいのであります。それで住宅などに致しましても、これは氣候の關係も無論ありますけれども、空氣の流通が良くて、大體に於て非常に明るいやうに考へます。それから着物なども氣持よく出來て居りまして、洋服に較べると非常にゆつたりして居ります。又我が國

民が非常に陽氣であつて、散り際の潔い櫻の花を國華と致しますのも、花の趣が國民の樂天的な快濶な、屈托の無い氣象とシックリ合ふ所から、一面に於て來て居るのではないかと考へます。櫻の花は咲いてから一度にパッと散つて非常に思切りがよい、さうして何等の未練も殘さない、一面から見ますと、日本人の齒切れのよい、氣前のよいといふ氣分と丁度一致するやうな點があると考へます。又文學を見ましても陰鬱な分子はありませぬ。概して非常に朗かで快濶であります。勿論悲劇などを見ますと悲しいものもありますけれども、外國物に見られるやうな深刻な場面はありませぬ。殊に輕快洒脫な氣分や修辭を特色と致しました俳諧とか、狂歌とか、狂文とか、狂詩とか、川柳とか、又劇にしても滑稽な狂言など、特殊な場合の文學が非常に多いのであります。是等にも快濶な精神が充分に露れて居ります。

又死ぬるといふことは人生の最も悲慘な事でありますが、我が國では死ぬる今端

の際に及びまして、諧謔洒脫な辭世の歌を詠んで、笑つて瞑目するやうな人物が尠くない。これは外國では迚も見られない現象であつて、一面から申しますと思ひ切りがよいといふことになつて居ります。又日本人程死生に執着の少い國民は世界に無いやうであります。罷り間違へば死ぬることなどは何とも思つて居ない者が多いのであります。自殺者は世界に於て、日本が殆ど第一に位して居るくらゐ多いさうであります。これは餘りに思ひ切りがよ過ぎて、人生に執着が無さ過ぎるといふ點が殃したものと考へます。新聞などを見ますと、女中にしても一寸した事で主人に叱られると劇藥を嚥んで死んだといふやうな、極く小さな動機で死ぬるやうな場面がちよい〳〵あります。これは此の性質の惡るい方面の現れたものと考へます。古の武士は戰場に於て死を視ること歸するが如き態度で非常に花々しく戰つて、何時も目醒ましい働きが出來ましたのも、矢張り此の快濶樂天によるのであつて、さうして思ひ切りのよい朗かなかういふ生活が齎らした結果であると考へます。

我が國の國語は御存じの通り非常に母音が多い。母音の發音は輕快でありますが、子音の發音は非常に晦澁であります。然るに我が國の言葉は母音が非常に多くて、其の調子が何となく輕快で穩かに聞ゆる、これも矢張り我が國民性の快濶な方面の性分が現れ、それと關係があるやうに考へます。又一面に於て江戸時代の國文或は狂言などを見ますと、隨分露骨な洒落が盛んに濫發されて、俳文などにも洒脫な洒落が澤山あります。是等も矢張り此の性分の現れと見て宜しいかと思ひます。此の性情は我が國は氣候が中和でありまして、又天氣も割合に朗かである、風光は明媚であつて、産物もどちらかと云へば饒かであります。さうして又外國の侵略や壓迫を受けず、心の儘安住することが出來るといふ所から、國民性情にもこれが影響して、自然とそこに朗かな屈托のない性格が現はれたものではないかと考へます。

七、現實性

それから現實性といふのは樂天性と通ずる性質であります。理想よりも現實を重んじ、又理論よりも實行を重んずるのは、我が國民本來の特色の一つであります。我が國を「言擧げせぬ國」と申して居るのも、かういふ事情からであると思ひます。隨つて未來の世に對する希望とか、或は空想的な幻影に憧れて、實行を怠るやうなことは我が國では排斥して居ります。我が國で理論を主とするやうな文學とか、瞑想とか、思索を主とする所の深刻な哲學や宗教が餘り發達しなかつたのも、矢張り現實性が餘り强い爲めであるかと考へます。

現實的の儒教が我が國に輸入されてから、容易に國民生活と調和して人心に大きな影響を與へました。又佛教は非現實的な性質があるに拘らず、それが傳はりますと、前にも申上げましたやうに、それを現實的に同化して居ります。況や古典に現れました神話は現實的であつて、神を祭り神を禱る祝詞の眼目とする所も、矢張り現實生活の上に安住の樂土を實現せんことを希うて居るものと認めて宜しいかと

考へます。神道の思想が現實的で、現實の國家や國民生活の安寧幸福を圖る爲めであることは申すまでもなく、歴史的の事實や文學などに現れました思想などは、現實的色彩が基調となつて居ることは申すまでもありませぬ。これも我が國は天惠が割合に饒かであり、國民が安んじて現實生活を營み、さうして樂しく幸福に暮すことが出來るといふ事情や、國土が島で餘り大きくなく、さうして大陸地方に見るやうな廣漠深遠な環境が無く、深刻とか陰慘といふやうな、非常に强烈な境遇に接することが無いといふ事情から來て居るものではあるまいかと考へます。

八、積極性

又積極性といふやうなものも特性の一つと考へます。我が國は東洋の端に在りまして、世界中で一番先きに日の光を受ける陽性の國になつて居ります。さうして「日の出づる國」とも稱せられて居り、皇祖神に在します天照大御神樣を日の神に擬へ

奉り、又皇位を「天津日嗣」とも申上げ、それから我が國の國旗となつて居ります徽章は「日」を擬へて居り、さうして我が國民は概して進取の氣象に富んで、何時も潑剌たる元氣を以て生々發展して居ります。此の生々發展には當然勤勉努力を伴ひ、又積極的に海外文物を盛んに取入れて向上發展し、さうして又それを擴大し充實して國運の發展を促し、今日の盛觀を呈して居ることと考へます。

神話に現れました思想には少しも消極的退嬰的な所はありませんで、どこまでも積極的な活動發展の精神を以て一貫して居り、又祝詞を見ましても、「狹き國は廣く峻しき國は平らけく、遠き國は八十綱掛けて引寄する事の如く、皇大御神の寄ざし奉り玉へば」云々といふやうな、一種の武士的精神の表現、積極的國土發展の精神の著しい發動と見られます。天孫降臨、それから神武天皇の創業、神功皇后の三韓征伐、日本武尊の熊襲及び蝦夷征伐以下、國史に見えて居ります歴史的事實は、文化發展の過程には比較的進歩の迹が認められ、殊に明治維新以來僅か六十餘年に

して、歐米先進國を追ひ拔く程な素晴らしい發展を致しましたことは、世界の歴史に全く類例の無い驚異的な奇蹟と稱せられて居ります。

又一方に獨創に乏しいとか、科學的方面の能力が足りないとかいふ批評を受けて居りましたが、我が國民は近來になりまして、理論的方面に於ても白人を凌駕して、續々世界的の發見や研究を遂げて居ります。又農業生産、商工業の方面に於ても世界的に進出して、御存じの通り歐米人を壓倒し、一大センセーションを捲起して居ります。又軍事方面に於きましては、日清、日露の兩戰役はいはずもがな、近く滿洲事件、上海事件などによつて素晴らしい腕前を見せまして世界一の折紙を付けられ、更に國際聯盟を脱退致しまして、國際危局に立ちながら、世界を對手として花花しい活躍をしようとして居ります現狀は、最も雄辯に日本民族の積極的進取的な性情を物語つて居るものと云はなければならぬと考へます。これは我が國が四面環海、山が多く、氣候風土にも刺戟が相當に强く、又民族的血統の純粹、社會的組織

の合理的境遇などによりまして、國民の身體も精神も非常に頑强であり、又非常に鍛錬陶冶されました結果、さういふ性分が充實されるやうになつたのではないかと考へられます。尤も本質的に民族性にさういふ事が宿つて居つたといふことは無論考へられますけれども、亦かういふ環境がそれを輔けて居ることゝ考へます。

九、寛容性

其の次に寛容性といふものも特色の一つと考へます。我が國民は寛容性に富んで居りまして、極端な事を嫌ふ性質を持つて居ります。それで一面に於きましては非常に武勇であり、又剛健な性質を持つて居りますと同時に、一面には非常に穏和であり、寛仁でありまして、情け深く、さうして中庸を持するといふ傾向が著しいやうに思ひます。それで鬼をも挫くやうな勇將でも、單に强いばかりでなく、一面に於て非常に優しい穏かな心事を持つて居りまして、所謂花も實もある名將と稱へ

られるやうな人が澤山居ります。又さういふ兩面を備へて居なければ、眞の名將としては社會に於て容さないことになつて居るやうであります。又我が國民は一旦戰端を開きました場合には非常に勇敢に戰つて、戰へば必ず勝つといふ自信と實力とを以て花々しい働きをして居ります。隨つて動もすれば好戰國民などといふ評を受けることもありますが、併し決して我が國民は好戰國民でもなければ、又侵略國でもなく、外人などがさういふ批評をするのは非常に間違つた見解で、我が國民性の本質を知らない所から來た、楯の一面を觀察した結果と考へます。

今一つ例をとつて申しますと、城廓の造り方に寛容性が現れて居ります。我が國の城は御承知の通り石垣を以て圍みまして、外に濠があつて、濠の內に櫓其の他樣々の建物がありますが、城の內には民家を含まずに、單に城だけになつて構へられて居る、これが普通であります。ところが西洋や支那の城廓を見ますと、城內には必ず民家があり、卽ち大抵市街になつて居りまして、市街の外側に嚴重な圍ひ

があります。これはどういふ譯であるかと申しますと、我が國に於きましては假令城を落しても、敵を虐殺するとか、或は其の附近の民家を掠奪するとかいふやうなことは決して無いのであります。ところが支那や西洋に於きましては、殊に支那がひどいさうでありますが、戰爭で城を落しますと、必ず其の附近の民家を荒し、掠奪はまだしものこと、婦人に至るまで侮辱虐殺するやうなことがよくある、さういふ所から民家の外側に城廓を構へ、然も其の城廓は大きな輪廓の中に構へられることになつて居るさうであります。是等も矢張り我が國民性は極めて寛容であつて、さうして人道を重んじ、決してさういふ殘虐慘酷な事をしないといふ一つの證據になるかと考へます。

又規則正しくして、節度を重んずるといふことも日本軍の美しい事になつて居ります。それで我が軍は戰に勝ちましても決して敵を虐殺など致しません。又捕虜を獲ましても親切にこれを待遇致します。況して非戰鬪員などを虐殺するとか、或は

財物を掠めるなどといふことは斷じてありませぬ。ところが外國に於きましては、今申しましたやうに色々惡るい事を致します。それで赤十字といふものが明治になりましてから萬國的に組織されまして、敵味方の區別なく人道的にこれを救濟することが行はれて居りますが、我が國に於ては、古くからさういふ事をやつて居ります。それは御存じの通り有名な話でありますが、楠正行が瓜生野の戰に於て、盛んに敵を負かしました時に、敵兵が橋から川に落ちて、折しも冬でありまして、川に溺れて非常に難儀をしたといふので、正行がそれを五百人助けて着物や食物を與へ、負傷した者には藥を與へて、さうして乘物を附けて勞つて還してやつたといふ話が出て居ります。それが今日に於ける赤十字事業と少しも變らない美談であります。日本人は人間ばかりでなく、動物や植物に對しても極めて優しく、これを愛護する氣風を持つて居ります。

又節義を重んずる所から、禮儀を尙ぶ習慣が我が國民の著しい特質として、坐

作進退に一定の作法がありまして、お互日本人はそれを丁寧に實行して居りますが、話す言葉や手紙の文句でも、御存じの通り色々複雜な語法や作法がありまして、可なり面倒なものであります。是等は必ずしも形式的に鄭重にするといふばかりとは限らない、中には優しく、美しく、趣のあるやうにといふ爲めに用ゐられて居るものも尠くありませぬ。露骨とか、無作法とか、亂暴にやるといふやうなことを嫌ひまして、氣持よく、立派に言語動作を整理し美化する爲めに、敬語といふ特殊な語法が發達して居ります。外國人は坐作、進退、禮儀は極めて簡單であり、言語も敬語は非常に少いのでありますが、我が日本人の間に於てはそれが複雜であり、且つ敬語も多いのであります。

又我が國民の寬容性に就ては、我が國の風土氣候が大體に於て中和を得、社會組織が整然として統一せられ、さうして家を中心とし、又國家に於ては理想的に人間の至純なる相愛の情が優に活動する所から、心が穩かで餘裕が出來て、一面に非常

に勇ましい所があると同時に、一面にかういふ優しい、奥床しい生活が馴致されたのではなからうかと考へます。

一〇、鋭敏性

それから鋭敏性といふ事であります。我が國民の身體は御存じの通り西洋人に較べると小さい、身長が約四寸許り短いさうであります。併し動作は西洋人よりも遙に敏捷であります。敏活であります。柔道劍道などの武道に於ては申すまでもなく、運動競技などに於ても、日本人の方が大體に於て動作が敏捷ださうであります。唯だ駈けくらは西洋人は脚が長い爲めに日本人は敵ひませぬが、併しながら敏捷とか氣轉といふことを主とした競技に於ては日本人が第一で、近來水泳に於て日本人が世界第一の折紙が付けられて居るばかりでなく、高飛、幅飛其の他に於ても、世界的の競技は日本人の時代に移りつゝあるといふことは新聞で御存じの通りであります。其の他手細工が巧妙であります。線の細かな描寫の仕方、或は外科的施術が非常に巧妙で、鹽田博士の如きは世界の寶と云はれて居るさうであります。それから射撃も日本人が世界に於て一番巧妙であるといふことであります。飛行機の操縦や潜航艇の操縦も殆ど獨得であります。

それから智能を働かす所の學術の研究とか、發明、發見、應用、又工作に於ける業績を見ましても、西洋人を次第に凌駕して、世界的の第一線に到達して居るものが非常に多くあります。殊に學理的に日本民族の性能や精神の働きを應用せられた結果を見ますと、日本民族は西洋人に劣らないばかりでなく、寧ろ彼等よりも優れて居ることが證明せられて居る澤山の事實があります。殊に感受性の鋭敏なことは日本人が世界で一番優れて居るといふことであります。我が國民はこれまで摸倣性に富んで居るが、獨創性に缺けて居るとか、或は精神的方面には優秀な特長があるが、科學的方面は駄目であるといふ批評をよく受けましたが、現在に於ける事實は

明かに此の批評を裏切つて、日本民族は獨創性に於ても、又科學的の性能に於ても、明かに白人に打克ち得る優秀な本質を備へて居るといふことが判つて參つたのであります。

それではどうして今日までさういふ事が判らなかつたかと申しますと、我が國は東洋の端に在る一孤島でありまして、他國との交通が餘り充分に行はれなかつた上に、江戸時代に於ては德川氏が鎖國主義の政策を執りましたので、西洋諸國との交通は和蘭以外には殆ど行はれて居ない、隨つてかういふ性能を充分働かすべき機會に接しなかつたやうであります。それが明治維新後になつて泰西の文化を輸入して科學的修練を積みましたけれども、西洋で百年掛つて居る筋道を僅か何十年かの淺い日にそれを辿りました爲めに、今日まではまだ彼等に追付くだけの修練鍛錬が出來ずに、偶々持合はして居る優秀な性能を發揮することが出來なかつたものと考へます。ところが今日になりましては愈々其の機會に到達して、從來我が國民の短

所と信ぜられて居つたものが必ずも短所でなく、立派に實力を發揮し得る自信を得たといふことは、我が國民に取りまして、洵に賴母しく愉快な事であると考へます。

偖て是等の美點はどういふ所から馴致せられたかと考へますと、我が國は島國で風土氣候が非常に好い、又地震地帶に位して居りまして、屢々地震に襲はれ、又火山が多くて爆發などが度々起ります。先達も鹿兒島の小さな島で爆發が起つて、大分死傷者があつたといふことが出て居りますが、淺間、阿蘇、三原山に絶えず爆發が起ります。又颶風帶に當つて居りますので、毎年幾度か大暴風に見舞はれ、又洪水が起ることも屢々あります。又夏になると雷鳴が到る處に起つて居ります。又雨も概して多く、冬になりますと雪が盛んに降り、霰や霙も降ります。それから動植物の分布、或は產物なども多種多樣であります。概して奇蹟が非常に多く、自然我が國民の神經が刺戟され、鍛錬されて、さうして敏感となり、延いて國民の性分が鋭敏になつたものであらうと考へます。

一一、結　言

以上述べました所は、日本國民の性情に就て、極めて大雜把に一瞥を加へた丈けでありまして、言ひ足りない點も澤山あります。併し大體に於て輪廓くらゐは判るかと考へます。要するに國民精神と申しますものは、其の國に特有なる先天的な特性が、更に國土とか、或は氣候とか、社會組織、境遇などによつて馴致せられ、著しく趣を異にするものであります。さうしてそれが國家國民の消長に密接なる關係があるものであります。それで我々日本國民が、我が國民性情の由來特質を明かにして、其の機能を發揮するやうにすることが肝要であります。

然るに近頃の我が國の實情を見ますと、我が國體や國民性の由來特質を殆ど無視して、徒らに歐米の主張に心醉し、全然趣を異にし、然も我が國體や國民生活に適應しない事柄を漁りまして、幾多の矛盾撞着と不祥なる事件とを惹起して居りま

すのは、洵に遺憾な次第と云ふべきであると考へます。

建築家の話に依りますと、例へばコンクリートの建築をするに方りまして、日本は非常に濕氣が多い爲めに、外國と同じやうなコンクリートでは可かぬ、全然遣り方を變へなければならぬさうであります。それから木造の建築にしましても、西洋でやる通りの方式でやると可かぬ、我が國には我が國特有の氣候があり、殊に我が國は濕氣を含んで居ることが非常に多い、歐羅巴邊りは非常に濕氣が少い。それで全然建築の方式を變へなければならぬさうであります。詰まり日本と致しましては、日本式の木造建築法が一番適當して居るといふことであります。それで何千年來今日まで依然として行はれて居る建築は、確に我が民族の長い間の經驗によつて、さういふ風土氣候に順應するやうに興つて來た建築樣式であると考へます。

又お醫者さんの話に依りますと、西洋人と日本人とは體質が違ふ。それで藥の盛り方でも、治療の仕方でも全然變へなければ駄目である、歐羅巴人に利く喘息の藥

を日本人に服用させても少しも利目が無い。それから獨逸では、チブスに罹りますと微溫湯浴をやらせる、チブスに罹るとそれをやるものと定つて居る。ところが日本人にそれをやりますと、非常に結果が惡くて、大抵死んでしまう。全然事情が違ふさうであります。

かういふ風に風土や氣候が違ひますと、建築樣式にしても變へなければならず、又治療法も藥の盛り方も變へなければならぬさうであります。我が國は萬世一系の皇室を中心と致しまして、家族制度を以て國を成し、さうして敬と愛とを基調として互に助け合ひ、協同一致して、皇室と國家とが完全に結び付き、更に國民がそれに鞏固に結び付きまして、所謂三位一體となつて、理想的國家統制を辿りながら、國家本位に大我的觀念を以て國運の隆昌を期することを本分と致しまして、いはゆる天壤無窮の御榮えは國民の一大祝福たると共に一大信仰であります。ところが西洋に於きましては、個人を本位として、人民の爲めに立てました君主又は大統領

を支配者として居つて、互に權利を主張して、自由を得んが爲めに爭つて居り、さうして人民と人民とが對立し、人民と國家とも對立し、又君主若くは大統領と人民とも對立し、鬪爭意識を以て一貫して居ります。さうして社會階級を倒さんと心掛けて鬪爭して居りますからして、中々爭ひが絶えぬのであります。

又其の國家組織或は社會組織が常に動搖して居りまして、日本と西洋とに於ける國體、國情、國民精神の相違は、一言で申しますと、かういふ風に殆ど天と地との違ひよりも甚しいくらゐであります。然るに此の不具な國家的社會樣式を、完全無缺なる我が日本帝國に當嵌めようとする西洋心醉者、殊にマルキシズム、乃至共產主義一派の心情は、我々に於てどうしても正氣の沙汰とは考へられませぬ。

私は我々の國家こそ世界に於ける唯一の完全なる理想的の、然も合法的の國家であり、「日本精神」こそ、是亦世界に於ける最も優秀善美なる國民精神であると考へます。さうして「日本精神」の中心となり、根柢となつて居りますのは、「神なが

らの道」であります。皇道であります。これを大に振興して益々其の威力を發揚し、八紘に遍き皇室の御稜威と、光彩陸離たる神國日本の精神を、世界的に文字通りに發揚するやうに努力するのが、我々日本國民の使命であり、又責任であると考へます。（昭和八年十二月二十六日、斯道懇話會講演）

終

昭和九年四月廿五日印刷
昭和九年四月三十日發行
〔非賣品〕
編輯兼發行者　神道護國聯盟
右代表者　柴田孫太郎
東京市牛込區東五軒町三八番地
印刷者　森本直次郎
東京市豐島區巢鴨一六八八番地
發行所　神道護國聯盟
東京市神田區和泉町一番地
不許複製